

2021年9月11日発行

オリガミアンだより

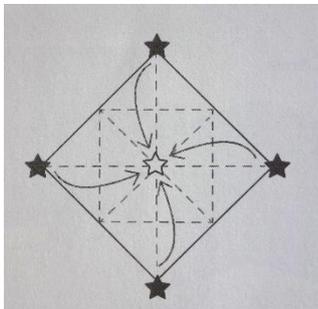
第54号

コインが消える箱

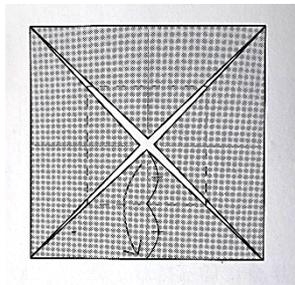
コロナ禍で永い休講が続きましたが、再開第1回の9月21日は『孫の心をわしづかみ おもしろ！ビックリ！ おりがみ手品』小林一夫著 PHPの中から「コインが消える箱」を取り上げます。

(写真はいずれも同書から)

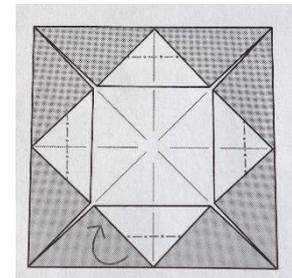
しっかり練習してから臨んでください。何を言われても毅然と演ずることが大事です。マジックですからね。



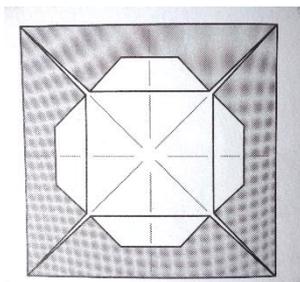
図のように折りすじをつけ、★が★に合うように折る



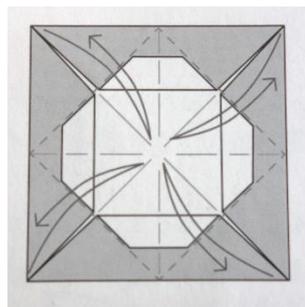
三角の部分を中心から半分折る。ほかの3カ所も同じように折る



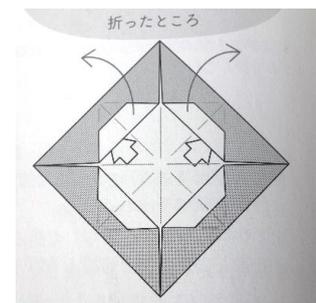
三角をさらに裏に折る。ほかの3カ所も同じように折る



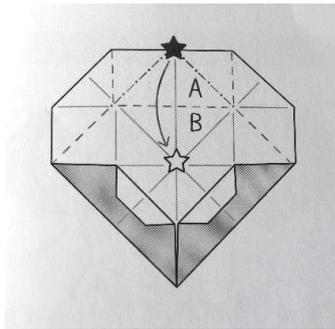
折ったところ



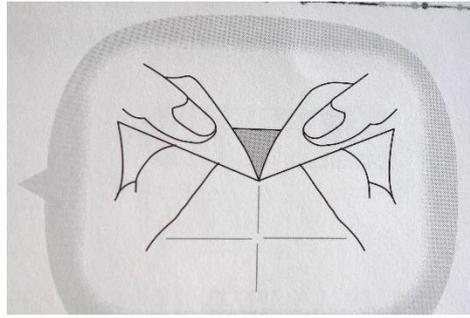
図のように折りすじをつける。向きを変える



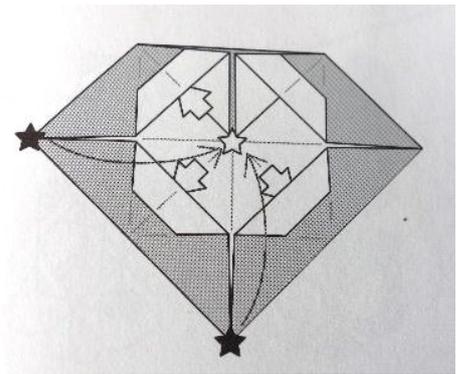
あいだを開いて、角を開く



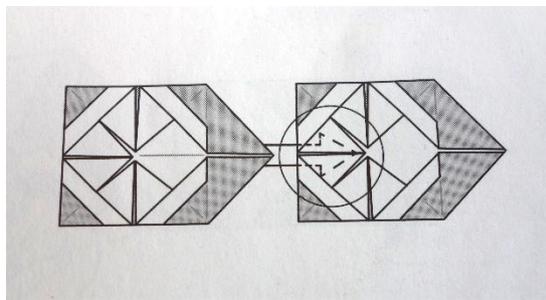
★が☆に合うように折ってたたむ



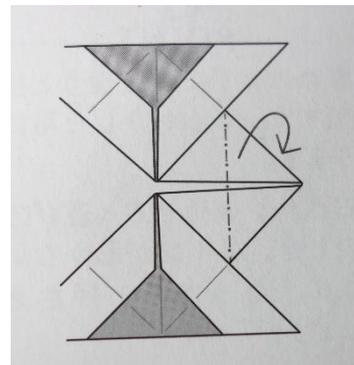
山折り線をつまむとたたみやすい



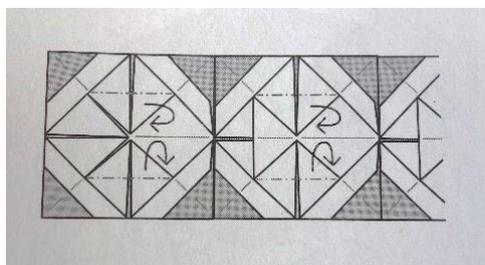
ほかの2辺も前々図と同じように折る。同じものを、全部で6こつくる



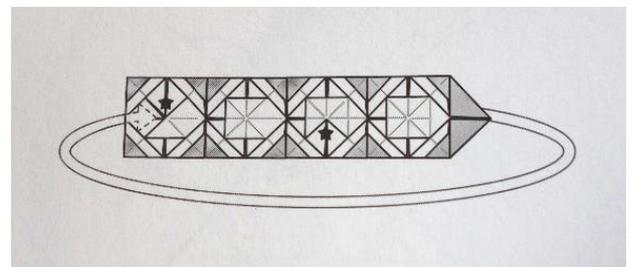
図のように差し込み、4つを一行につなげる



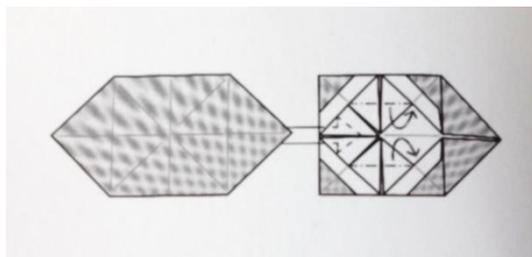
差しこんだ部分がぬけないようにま
とめて中に折りこむ



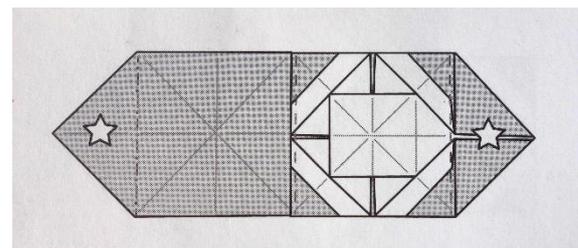
ほかの小さな三角も、中に折りこむ



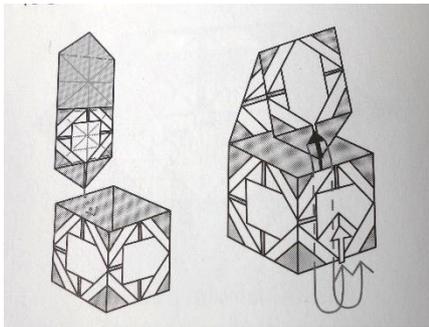
輪にして上の図のようにとめる。★の部分は中に折りこまない



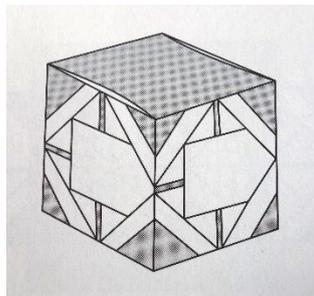
のこりの2つのうち、1つは三角を引きだし、差しこんで上から2段目・右側の図のようにとめる。小さい三角部分は図のようにとめる



図のように折り目をつけておくと組み立てやすい



前ページ3段目・右の図(A)と、前ページ4段目・右の図(B)を上のように組み、折りこまなかったBの☆部分をAの☆部分に差しこんで前ページ2段目・右図のようにとめる

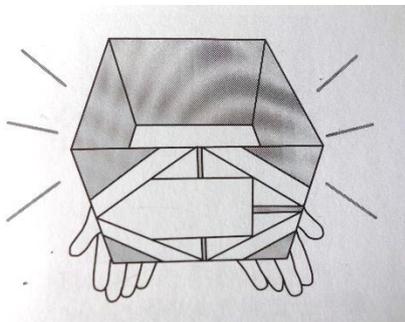


箱がガサゴソと音をたてないように、折りこんでとめた部分をのりづけする

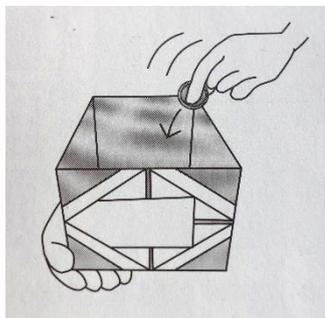
POINT

- ・厚めのおりがみを使うと折りやすく、しっかりした箱になります。
- ・このページ「見せ方・遊び方」3段目 左の写真の時、コインが動かないように、しっかりと押さえましょう。

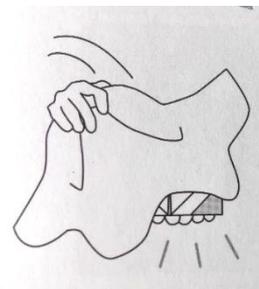
見 せ 方 ・ 遊 び 方



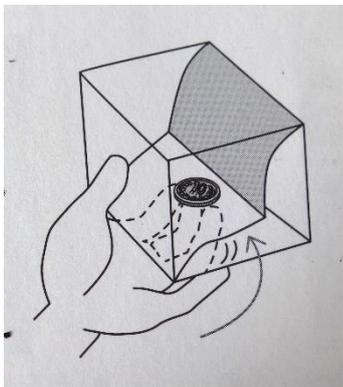
中に何も入っていないことを見せる



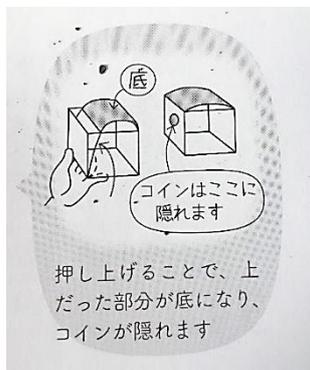
コインを入れる



ハンカチをかぶせる



底をぐっと押し上げる

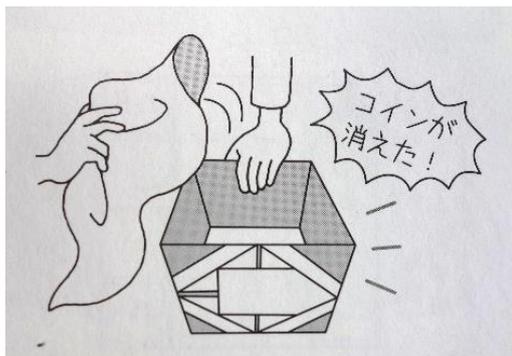


押し上げることで、上だった部分が底になり、コインが隠れる



コインを押さえながら箱の上下を返し、布を取る

「はい、コインが消えました!」と言って、箱を振ってみせる



「マジック・ローズ・キューブ」

神戸で花開いた経緯

週刊新潮が伝える

掲示板へのご返事

田中綾華さまへ——「バラにまつわる思い出を教えてください」とのこと。私の思い出は、本物ではなく、折り紙のバラについてです。約30年前の話になりますが、お茶の水の老舗和紙店「ゆしまの小林」の小林一夫社長から「マジック・ローズ・キューブ」なるものを教えてもらいました。ちよつと手を加えるだけで、折り紙で作ったサイコロが美しいバラの花に変身するという優れたもの。アメリカ人が考案して、日本人が改良したという国際色豊かな折り方ですが、当時は著作権との兼ね合いで折り図はなく、折り方を忘れては大変と、帰りの新幹線の中でも真剣に復習。なんとか神戸に持ち帰ることができました。現在、「神戸から大輪のバラを」と、地元の主婦らに教えて大変喜ばれています。

(兵庫県 熊谷信哉)

「掲示板」に対するご返事は「週刊新潮掲示板係」あてハガキか封書、電子メール(下記)でお送りください。電話によるご返事は辞退いたします。

電子メールアドレス keijiban@shinchosha.co.jp (住所氏名をお書き添え下さい)

'21.9.16

74

オリガミアンが教室で練習している「マジック・ローズ・キューブ」は美しいバラの花が咲くことで評判が高いが、サイコロがバラの花に化けるマジック的な要素もあって、これに触れる人たちの心をがっちりつかんでいる。

この「マジック・ローズ・キューブ」が誕生して間もないころ神戸に伝わり、今、大輪の花を咲かせている経緯が9月9日発売の『週刊新潮』9月16日号 74頁 掲示板の欄に掲載された。

同じ欄で埼玉県深谷市で無農薬の食用バラを栽培、販売されておら

れる田中綾華さん(「ROSE LABO」代表)が「皆さんのバラにまつわる思い出があれば教えてください」という呼びかけ(今年7月1日号)を行い、これに対して「オリガミアン」代表の熊谷信哉が「本物のバラではなく、折り紙のバラについてだが」と約30年前に東京の「ゆしまの小林・小林一夫社長」から伝授された折り方を神戸に持ち帰り、地元の折り紙教室で教えている話を披露したものの。

神戸市北区内での地味だが地道な活動が一気に全国区になった訳で、どんな方の目に触れ、これからどんな反響があるか大いに楽しみだ。

9月21日の次の定例練習日は10月5日(火)です。

編集:「オリガミアン」代表 熊谷信哉

週刊新潮

掲示板



古稀の挑戦
オール巨人 2月にCD『夢浪漫』をリリースしました。オール阪神・巨人45周年記念として昨年出す予定がコロナで延びて、古稀を迎える今年の発売となりました。人生を振り返りながらも明日を夢見る男の歌です。作詞作曲のオオガタミツオ先生に歌詞を一部変更してもらい、今の自分の気持ちを正面に歌っています。70歳ともなれば定年後の方も多いですが、同世代の方に、この曲を聞いて元気になってもらいたい。70



バラの思い出
田中綾華 私たち「ROSE LABO」は2015年から埼玉県深谷市で無農薬の食用バラを栽培、販売しています。弊社の理念は、「食べられるバラを通して、美しく、健康に、幸せに」というもの。バラのジャムや化粧品なども製造販売しています。生産(1次産業)、加工(2次産業)、販売(3次産業)を一貫して行う「6次産業」(1×2×3の



「両国」産について
大島幹雄 「日本の道化師」(平月社新社)を上梓しました。日本のクラウン(道化師)の歴史と現在についてまとめた本邦初の本です。現在は、昨年英国で発見された1914年撮影の日本人俳優一座の映像が誰のものかを調査しながら、第一次大戦中ドイツで拘禁されていた日本人サーカス芸人の足跡を追っています。映像の芸人は、太神楽の菊田源太郎ではないかと推測しているのですが、彼のこともまだ所属していた「両国一

意味)という、新しい農業の形を発信していきたいと考えています。皆さんのバラにまつわる思い出があれば教えてください。
(ROSE LABO)代表